

ご意見をお寄せください

自治労京都府本部では、組合員のみなさんのご意見を募集しています。組合のこと、機関紙のことなど、たくさんのご意見をお待ちしています。
TEL.075-252-5932 FAX.075-231-4918
E-mail: jichiro@jichiro-kyoto.gr.jp
http://www.jichiro-kyoto.gr.jp/



自治労きょうと

発行所・自治労京都府本部 〒604-0867 京都市中京区丸太町通烏丸西入北側N・H・Kビル2F
TEL.075-252-5932・FAX.075-231-4918 発行人・岡本哲也 編集人・森本尚秀
定価 一部10円 本紙の購読料は組合費に含まれています。



京都市長選挙

松井孝治さん初当選

2月4日投票開票の京都市長選挙で、府本部が推薦した松井孝治さん（無所属・新人）が当選した。16年ぶりの新人同士で激戦の中、松井さんは子育て世代の人口流出やオーバートリズムの対策、府市協調を訴え接戦を制した。松井さんは「地域の声に耳を傾け市政運営をしたい」と抱負。
ご支援・ご協力をいただいた組合員のみなさんに感謝申し上げます。



府本部
第180回
中央委員会

「あなたの声」を春闘に

府本部は2月9日、第180回中央委員会を京都府部落解放センターで開催。2024春闘を中心とする当面の闘争方針や府本部役員の補充など4つの議案が確認された。出席中央委員は、20単組41人で女性参画率は24・39%となった。

冒頭、岡本委員長は、「2月4日投票開票の京都市長選挙で松井孝治候補が無事当選を果たした。多くの組合員に感謝申し上げる。今年の春闘で連合の賃上げ目標は5%以上。中小企業においてもこの間原材料費だけでなく賃金分の価格転嫁でできるような取り組みが進んでいる。私たち自治労の春闘テーマは『あなたの声ではじまる春闘』。賃金だけでなく時間外労働やハラスメント、空調やトイレの環境など組合員の身近な声を集めて要求書として提出し、秋の賃金決定闘争につなげてほしい。また政府予算の地方財政計画では、公務員の

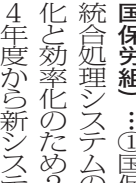
▲2024春闘勝利に向け、団結ガンバロー

会場発言・答弁



石橋中央委員
(国保労組)

▼石橋中央委員（京都府国保労組）…①国保事務統合処理システムの標準化と効率化のため2024年度から新システムへの移行が計画されているが、合理化が過度に進むと住民サービス低下や職場基盤の弱体化が懸念される。②55歳以上の昇給停止の提案に反対し、要



高橋中央委員
(八幡市職労)

▼高橋中央委員（八幡市職労）…①八幡市長選挙・川田翔子さん当選のお礼。②組合員が府本部の活動に参加する際に日程が調整できない課題があり、早めの情報周知を要望。

③低い給与水準が人員不足を招いている現状に對処するため、中央本部に地域手当の見直しを求めたい。④自民党政権は末期状態。京都からの政権交代をめざし自治労の運動として参加した梶村府本部副委員長は下記2点について発言した。①地域手当、特に「国基準を上回る手当支給による特別交付税減額措置の撤廃」に向け省庁対策など取り組みの強化、②京都市長選挙における状況報告と全国の仲間、家族、知人への支援を要請。

地域手当見直しへ要請

本部中央委員会で発言



自治労本部は1月29日から2日間、第165回中央委員会を東京都内で開催。京都から中央委員

みならず会計年度任用職員や外郭団体へも予算措置がされるので各単組での交渉に活用を。最後に来夏の参議院選挙。岸まきさんの再選に向けリモートでも応援をお願いしたい」と主催者を代表してあいさつ。

当面の闘争方針案、②府本部役員の補充案、③離職専従役員候補者の選出案、④特別執行委員の選任案を提起。中央委員からの発言に対する執行部としての全体的な取り組み。▼中川中央委員（京都市職）…①本部動画「ありったけの現場力」作成協力に感謝。②京都市長選挙勝利のお礼と次期自治体選挙に向けた課題整理を。③能登半島地震の被災地支援に関し、現場の苦境や公務員の減少傾向などを報告し全体的な合理化提案への危機感を表明。

岸まきちゃん

第27回参議院全国比例区選挙
自治労組織内参議院議員



双思交

某公共放送局に72hourという番組がある。同じ場所です3日間撮影をして、行き交う人を取材するという単純な内容だがこれがひびく面白。番組としての人気も高まっており、過去の再放送もされている▼その中で最近、2013年に放送された「新郵便局の3日間」という回を観た。当時はまだ手紙や文書を送る人が多かった。手紙以外にも試験の願書、就活の履歴書、クリスマスカードに写真。今ではメールやLINE等で瞬時に送ることができ、情報のやり取りは進歩したのだが、気持ちのやり取りは果たしてどうなのか▼番組の中で、複数の児童養護施設に毎年700通の手書きのクリスマスカードを送る初老の男性がいた。「なぜ毎年これを送るのですか？」突然の問いかけに「自分もかつては親がなく施設で育った児童養護施設は身寄りのない子どもが多く、私自身、自分宛に手紙が来るようになってきた。寂しかったものだから」▼毎年、この男性から届く自分宛のクリスマスカードを広げる子どもたちの笑顔が浮かんだ。(M)

新執行部のみなさん



執行委員
武田勝臣さん
(京都市職)



執行委員
山本勇さん
(京交労組)



執行委員
西川翔さん
(井手町職)



執行委員
村城安美さん
(京田辺市職)



執行委員
住吉晃汰さん
(八幡市職労)



執行委員
佐野賢佑さん
(国保労組)



▲近畿地連の参加者で平和の「わ」

<近畿地連結成70周年記念事業> 沖縄フィールドワーク参加者報告

戦闘機の爆音、基地問題…

私たちが感じた
平和の大切さ

1日目は沖縄各地に残る第二次世界大戦、沖縄戦について学んだ。

まず初めに南風原（はえばる）とひめゆりの塔に行き、映像資料や戦争時に使用された現存する壕に立ち入り、過去に起きた戦争の凄惨な体験を迫体験することができた。1番印象に残ったのは、戦争で他国の兵士に殺されるのではなく、日本のそれも本来であれば命を救う側である軍医に、敵軍の捕虜にさせないよう動けない兵士が毒殺されていたという事実である。このような悲惨な戦争をなくすために、自分たちの世代でしっかりと戦争反対運動を続け、またこの平和を維持していくことが戦争で亡くなった方たちにできることだと感じた。

2日目は沖縄県で問題となっているアメリカ軍基地の課題について学んだ。テレビでの報道を観るだけではわからない実際に沖縄に住まわれている方への騒音問題を目の当たりにすることができた。

今回の研修で得た沖縄の問題を、他人事ではなく同じ日本国民としてこの問題に立ち向かっていかなければならないと感じた。個人の力は小さいものではあるが、自分自身にできることを行っていきたい。

城南衛管労組・奥村怜

2024年1月21日～23日の間、近畿地連結成70周年記念「沖縄フィールドワーク」に参加した。

南風原文化センターやひめゆり平和記念資料館の見学では、映像や展示により沖縄戦を学習したほか、実際に沖縄陸軍病院として機能した壕に入り迫体験を行った。戦時中の悲惨な情景を肌と感じ、改めて戦争の愚かさを痛感するとともに二度とこのような惨劇を起こしてはならないと強く思った。

また日本にある米軍基地のうち、約7割を占める沖縄県の基地も複数訪れた。基地では、戦闘機や偵察機などにより、急速に旋回を繰り返す飛行訓練が行われていた。

また、飛行とともに発する爆音は、慣れているはずの現地の住人ですら、訓練機が飛来する度に、見上げたり耳を塞いだりする様子が見受けられ、沖縄県では人々の平穏な生活を妨げる事態が日常的に繰り返されていることが伺えた。

現地での自治労沖縄県本部との交流を通じては、沖縄県が抱える様々な問題に対し、他府県本部においても自分ごととしてとらえ、共に解決に向けて取組を強化することの重要性を実感した。今回の沖縄フィールドワークを経て、私の平和に関する意識は格段に高まった。

久御山町職・小笠原隼



自治労近畿地連は1月21日から23日、各県本部の青年女性組合員を対象に、「沖縄フィールドワーク」の取り組みを行った。近畿地連結成70周年記念事業として企画され、平和運動の意義を伝え、次代の担い手育成を目的に実施された。参加者は、日本で唯一地上戦が行われ、多くの民間人が犠牲となった沖縄の惨状や、本土復帰後も全国の米軍基地面積の70%以上が集中する沖縄の基地問題などについて学習。京都府本部からは増永書記長と若手組合員5人が参加した。参加者のレポートを掲載する。

今回の記念事業を通じて、印象に残ったことは以下の3点です。

①大切な人を守るため、また平和な暮らしをし続けていくためには、絶対に戦争を繰り返してはいけない。

②騒音を始めとする公害問題やインフラ等に影響を及ぼす米軍基地と共存することへの苦悩や土地の有効活用方法について。

③地域を守るための平和運動と職場の仲間を守るための組合運動が非常に似通っていること。

現地を訪れ、平和について学ぶことは初めての経験であり、同じ日本に住んでいても知り得ないことが多くありました。基地のすぐ傍には街があり、会議や電話を中断しなければならない程の戦闘機等の爆音を何度も肌で感じました。そこで生活を送られている方の苦悩が垣間見え、また、他人事で済まされてはいけないことについても再認識させられました。

平和運動をされている現地の方からお話を伺い、一人ではできないことを団体として交渉する点については、平和運動も組合運動も同じであり、組織力が肝心要であることがわかりました。当たり前のように過ごしている平凡な生活に感謝しつつ、よりよい生活を送るためには、一人でも多くの方々と協力しあう必要性があり、今後も運動を続けていかなければならないと感じました。

八幡市職労・大池加恵

近畿地連結成70周年記念・沖縄フィールドワーク
2024年1月21日～23日 於 自治労沖縄県本部

今回の沖縄フィールドワークでは過去の戦争の悲惨な歴史、今も地域住民を悩ませる米軍基地の問題、アメリカ文化との共生、沖縄の食文化など幅広い分野に触れることができました。

その中で特に印象に残ったことは高台から行った米軍基地の見学です。今まで沖縄の戦争の歴史とその後の基地問題について報道を見聞きする機会は多くありましたが、恥ずかしながら遠くで起こっている自分にあまり関係ない問題という認識でいました。

しかし実際に現地を訪問し日々生活が脅かされている地域住民の不安の声やそれに対応する現地役場の方の話を聞き、また実際に離着陸する戦闘機の騒音を体感することによって基地問題の難しさと深刻さについて理解を深めることができました。

今回のフィールドワークは沖縄の現状をより深く知ることができたと同時に、現地で実際に体験することの大切さを再認識できた有意義なものであり、自身の単組においてもリアルに触れることを重視した活動を展開したいと思います。

京交労組・安部行真

今回、自治労近畿地連70周年記念「沖縄フィールドワーク」に参加して、何気なく過ごしている日常がかけがえのないものだと思いました。また青年女性協議会のみんなで話すことがいかに大切なかがわかった3日間になりました。

まずは日本で唯一の地上戦があった沖縄について学びました。今見学可能な沖縄陸軍病院の20号壕の中に入り、その中では壕の壁が火炎放射器による痕があり、当時の戦争の禍々しさを肌で感じました。

そして、今の沖縄の現状についても学びました。それは、基地問題です。私たちが本土にいるときはニュースやSNSなどで知ることができそうですが、実際現地で感じるものは聞いているものとは違います。米軍の戦闘機、ヘリコプター、オスプレイなどが空中に飛んでいる音は隣の人が話す声が全く聞こえなくなるとはこういうことなのかと身をもって知りました。

これ以外にも沖縄の過去・現状を知り、平和が当たり前にあることがどんなに素晴らしいものなのか、このことをこれからは私たちが伝えていく必要があると思います。そのためには、青年・女性で関わる私たちは小さい疑問をみんなで共有するための関係性を作り上げる必要があると思います。これからの単組・府本部の様々な活動があると思いますが、積極的に参画していこうと思います。

京交労組・草川美佳

2024新年号クイズ
当選者発表

キーワードを繋げると「前人未到八冠達成の史上最年少棋士は?」となり、「藤井聡太」が正解でした。

応募総数は167通。たくさんのご応募・ご意見・感想ありがとうございました。厳正なる抽選の結果次の方が当選されました。当選者には商品券5千円分を進呈します。

【当選者】	自治労京都市職	西本泰士様
	自治労京都市職	沖恵太様
	京都市学給労	大西和香子様
	八幡市職労	古賀希菜子様
	城南衛管労組	奥村正幸様

2024年春期

京都労働学校
受講生募集4月～6月開講
受付中

今こそ学ぶ スキルアップ！

New All人工知能活用入門・中級、人生設計＆お金のキホン

オススメ 最新！労働法入門、3級FP、簿記、心理学

英会話：スピーキングのコツ、ビジネス英会話 他

主催：京都市・ラポール学園（公益社団法人京都勤労者学園）

お申し込みは、WEB・電話にて

075-801-5925

受付時間：平日9:00～20:00、土曜9:00～17:00（日曜・祝日は休み）

中京区四条御前ラポール京都3F

詳しくはHP・講座案内をご覧ください。

ラポール学園

